

中国 新型コロナウイルス感染状況について



今年の上海は7月初旬に梅雨明けとなりました。数日の間は蒸し暑い日が続いていましたが、25日から26日にかけて浙江省、江蘇省、上海市一带のいわゆる華東地区を大型台風6号(烟花・In-Fa)が直撃し、道路冠水や停電が起きるなど大きな被害を受けたところもかなりあるようでありました。身近なところでは、当社の古北路x仙霞路の交差点にある一本の電柱が倒れ一時騒然としましたが幸いにもケガ人はいませんでした。台風は過ぎ去りましたが、今夏は雨が例年に比べ多い予報となっています。

7月20日以降、江蘇省南京市で新型コロナウイルスの国内感染発生を発端にして中国各地で感染者数が増え始めています。まん延が深刻化しているのは南京禄口国際空港で空港従業員の間で感染が拡大しており、早期感染者である機内清掃作業員の遺伝子配列は、10日にロシアから中国国際航空CA910便で入国した感染者の遺伝子配列と一致するとの調査結果が出ているようです。

原因は、機内清掃に入った作業員の防護服の取り扱い方、ゴミ処理方法に問題があり、国内線・国際線両方の機内清掃を担当していた、掃除道具も分けておらず消毒体制が甘い等が指摘されています。(23日には同空港が感染拡大の原因となったことを重く見て、空港を管理する東部機場集団のトップを解任)。更に清掃員の家族や清掃員を空港に送るバスの運転手などからも感染者が出始めており、感染は徐々に空港外に拡大してきております。南京市当局は25日には全市民を対象に1回目のPCR検査を実施し陽性者は57人で、そのうち南京空港のある江寧区が51人という結果が出ております。

今回の南京空港を発端とする感染が広がっている新型コロナウイルスについてインド由来の変異株「デルタ株」と発表されており、人々の往来が多い空港が感染源となっていることに加え、デルタ株は従来型より感染力が強いため、感染が全国各地に波及してきています。これまでに遼寧省瀋陽市、安徽省馬鞍山市、広東省中山市など中国各地 10 省 22 カ所で確認がされています。上海市においては依然として国内感染者は出ておりませんが、「暫くは上海から出ないように」と呼びかけられています。国内出張が多い企業では対応に苦慮されておられるような話も少なからず聞こえてくる現状であります。